

令和4年度 学校評価表(自己評価・改善の方策)

一迫商業高等学校

教育目標	1. 協調と奉仕の精神をもって誠実に責任を果たす態度を養う。 2. 自主的な精神に富み、不屈の意志と逞しい実践力をもつ健全な心身を育てる。 3. 科学的な知識とすぐれた技能を習得し、勤労を重んじ、進んで創意工夫に努める態度を養う。 4. 郷土に対する認識を深め文化遺産を愛護し、豊かな情操と高い道徳心を培う。
------	---

重点目標	1. 基礎学力の定着と学力向上 2. 規律ある生活習慣の確立 3. 授業の工夫・改善と指導技術の向上 4. 部活動や学校行事等の充実 5. 進路実現に向けたキャリア教育の推進 6. 地域への貢献と地域企業との連携
------	---

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。
 A:達成している B:おおよそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない
 ☆ 学校関係者評価は、次の基準による。
 A:適切である B:おおよそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

	努力目標		◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価		
	具体的な取り組み				自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ	
総務・ 進路部	1	PTA・教育振興会・同窓会との連携を通して、保護者に本校の教育方針や指導目標を理解・共感してもらえるよう働き掛ける。	A	○PTA役員がなかなか決まらなかった。また、外部講師面接の申込が多くなかった。対策として、PTA活動に協力したいと思ってもらえるように、行事での本校の魅力や頑張っている生徒の姿を学校ホームページやPTA会報を通じて情報発信していく。 ○NIE教育指定校であることを考え、石楠花祭で「新聞スクラップコンクール」を実施した。新聞に意識を持ってもらえる活動ができた。 ○図書視聴覚委員会の石楠花祭「ビブリオバトル」がそのまま定着できると良い。 ○記念誌は令和5年度末(令和6年1月～2月)発刊、記念品(エコバッグ・クリアファイル)のデザインも今後準備を進めていく。他校の周年記念は今年度も視察できなかった。対策として、次回の実行委員会では記念誌・記念品の案が提示できるようにしたい。 ○1学年:外部業者によるガイダンスを行い、進路意識を高めさせることができた。 ○2学年:インターンシップの準備は滞りなくできた。新たな探究活動を実践したが、楽しんで行えた。発表は学期末に行う予定である。 ○3学年教員の協力により、面接や履歴書の指導がスムーズに行え、全員の進路が年内中に合格・内定した。その反面、進路室の利用が極端に少なく、企業見学や試験など事前準備の出来ない生徒が大半だった。自分で計画をたて、面接指導をお願いする生徒が少なかった。対策として、2年生からの進路室利用の呼びかけやLHR・総合的な探究の時間等を使った進路意識の高揚を図る。	1	A A A A A	A A B A A
		PTA・教育振興会・同窓会と連携を図りながら、保護者や地域に本校の教育方針や指導目標を分かりやすく伝える。また、いただいた意見や助言に対して耳を傾け、本校の教育活動の参考にできるよう努める。	A				
	2	担任や教科担当等との連携を密にし、生徒にとって適切な資料の提供が行えるように努める。	A		2	A A A A A	A A A A A
		授業での図書館利用を呼びかけ、教科と連携しながら資料提供や展示を行い、言語力・語彙力を高める教育活動への支援を行う。	A				
	3	創立50周年記念への堅実で着実な準備を行う。	A		3	A A A A A	A A B A A
		令和5年度の本番に向けて、記念誌の準備・実行委員会の開催・資料作成および他校の周年記念式典を視察し参考にしていく。	B				
	4	1, 2学年では自己理解、自己開発に努め進路意識の高揚を図るとともに進路計画の検討と実践に努める。	A		4	A A A A A	A A A A A
		入学から2年生終了までに、ガイダンスや講話、インターンシップを行い、進路意識の向上を図り、さらに進路計画の検討と実践に努める。	A				
	5	3学年は自己の将来設計を確立し進路希望の実現を図る。	A		5	A A A A A	A A A A A
		3年生では1, 2年生で得た知識、諸活動をもとに希望進路の実現を図る。また、社会人として恥ずかしくない資質を身に付ける。	A				

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。

A:達成している B:おおそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない

☆ 学校関係者評価は、次の基準による。

A:適切である B:おおそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

	努力目標		◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価		
	具体的な取り組み				自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ	
教務・ 情報部	1	全ての生徒に「わかる」授業を行います。	A	○生徒への授業評価アンケートで、「授業理解」の項目で「概ね満足」「満足」と答えた生徒が、全体の87%に上った。その後、分析結果を基に、どのような教え方が「わかる授業」に結び付くのかを教職員全体で共有できた。 ○業者の「基礎力診断テスト」を活用し、生徒の基礎学力を見える化し、教科と学年の分析を通して具体策を考えた。基礎学力向上の時間「KGタイム」や朝学習を活用し、学年と教科が連携して学習指導を行うことができた。 ○生徒の学びに向かう姿勢を高めるために、3度の二者面談を実施した。そこで担任から生徒へ前向きな評価をフィードバックし、生徒の学習意欲を高めた。 ○考査毎に「観点別評価内訳表」の作成・提出を通して、観点のバランスを意識した評価につながった。今後は評価における課題点等を集約・整理し、次年度に向けて改善していく。 ○職員会議や成績会議等の資料を全てデータ化したことにより、印刷製本等の作業を減らすことができた。また、生徒や教職員を対象にICT校内研修(オンライン授業等)を円滑に実施できた。今後は臨時休業時などに実際に運用していく。	A	A	
		生徒からの授業評価を活用し「わかる授業」とは、どのような授業なのかを研究分析し、全体へ情報発信する。本校職員へ特別支援教育の校内研修を実施し、学習に困難のある生徒に「わかる授業」を提供できるようにする。	A		A	A	
	2	全ての生徒に「できた」と実感させます。	A		○業者の「基礎力診断テスト」を活用し、生徒の基礎学力を見える化し、教科と学年の分析を通して具体策を考えた。基礎学力向上の時間「KGタイム」や朝学習を活用し、学年と教科が連携して学習指導を行うことができた。	A	A
		教科担当者と学年団が連携しながら、生徒の基礎学力を向上させる。生徒に基礎力診断テストの結果を振り返らせることで、生徒に「できた」を実感させる。	A			A	A
	3	全ての生徒の「やろう(やる気)」を高めます。	A		○生徒の学びに向かう姿勢を高めるために、3度の二者面談を実施した。そこで担任から生徒へ前向きな評価をフィードバックし、生徒の学習意欲を高めた。	A	A
		生徒が勉強を「やろう」と思えるように、基礎力診断テストと関連付けた「一商進路マップ」「BINGO」「二者面談」などを実施する。生徒と担任と一緒に学習活動を振り返ることで、生徒のよさや特性を把握してもらう。この取組により進路決定を円滑に進め、進路達成に向けての学習意欲の向上を図る。	A			A	A
	4	観点別学習状況評価の質を高め、評価に係る教師の力量の向上を図る。	B		○考査毎に「観点別評価内訳表」の作成・提出を通して、観点のバランスを意識した評価につながった。今後は評価における課題点等を集約・整理し、次年度に向けて改善していく。	A	A
		考査毎に評価の実践事例を蓄積・共有していき、教師同士で話し合い、よりよい評価の在り方について研究する機会を設ける。	B			B	A
	5	仕事の情報推進化(仕事のデータ化、オンライン化、ICTを活用した効率化)に努めます。	B		○職員会議や成績会議等の資料を全てデータ化したことにより、印刷製本等の作業を減らすことができた。また、生徒や教職員を対象にICT校内研修(オンライン授業等)を円滑に実施できた。今後は臨時休業時などに実際に運用していく。	A	A
		仕事の効率化を図るために校務分掌全体から情報を募る。学校全体の情報化を推進し、教職員の仕事の生産性を向上させる。そのことにより、一人ひとりの生徒と接する時間を増やす。	B			B	A
生活 支援部	1	生活指導の徹底	A	○今年度の特別指導は、無許可アルバイトの1件のみであった。 ○いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に取り組んだ。今後も生徒たちの変化を見逃さないように全職員で共通理解のもと取り組んでいく。 ○バイク実技講習会を4/22、9/27の2回実施した。生徒の生命を守るために、次年度以降も継続して実施していく。 ○マナーアップは4～11月の月2回(1日と15日)に行った。次年度も継続して実施していく。 ○生徒会執行部が中心となり、「あいさつ運動」と「ゴミ拾い」を行った。今後も継続していく。 ○石楠花祭の一般公開は、人数制限を設け3年ぶりに実施できた。生徒会や委員会が新企画を取り入れ、大変有意義な行事とすることができた。 ○昇降口でのあいさつ活動を継続して行った。 ○学校行事の際に、不審者対応として校内外の巡回指導を計画的に行った。	A	A	
		定期的な服装頭髪検査実施や日常での積極的な指導を実施する。各種講演会の実施による、生徒の安全で安心な生活のための指導を行う。	A		A	A	
	2	交通安全の推進	A		○バイク実技講習会を4/22、9/27の2回実施した。生徒の生命を守るために、次年度以降も継続して実施していく。 ○マナーアップは4～11月の月2回(1日と15日)に行った。次年度も継続して実施していく。	A	A
		交通安全講話・バイク実技講習会の実施・自転車点検を実施する。	A			A	A
	3	生徒会諸活動の活性化	A		○生徒会執行部が中心となり、「あいさつ運動」と「ゴミ拾い」を行った。今後も継続していく。 ○石楠花祭の一般公開は、人数制限を設け3年ぶりに実施できた。生徒会や委員会が新企画を取り入れ、大変有意義な行事とすることができた。	A	A
		部活動への積極的取り組みやボランティア活動参加への声掛けを行う。	A			A	A
	4	盗難防止と不審者対策	A		○昇降口でのあいさつ活動を継続して行った。 ○学校行事の際に、不審者対応として校内外の巡回指導を計画的に行った。	A	A
		校内外の巡回や昇降口でのあいさつ、服装指導を行う。	A			A	A
	5	生徒の健康管理および保健・衛生の推進	A		○清掃分担以外で手が届く場所は、職員間で考査期間中等を利用して清掃する。 ○健康観察に今年度もゲーグルフォームを利用し、生徒の健康状態の把握した。	A	A
		毎日の健康観察や保健だよりの発行による保健指導を行う。	A			A	A

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。

A:達成している B:おおよそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない

☆ 学校関係者評価は、次の基準による。

A:適切である B:おおよそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

	努力目標		◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価								
	具体的な取り組み				自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ							
一年生	1	規律ある生活習慣の確立	A	○バス通学のため朝学習に間に合わない生徒も多いが、8時40分には登校している生徒が大部分である。体調不良は出席停止にして無理せず休ませる方針だったため、生活リズムを整えきれない生徒もいた。クールビズ終了後、第一ボタンをはずしている生徒には、声かけが必要であった。 ○面談期間が設定されたことで面談は行いやすかった(時期は再検討が必要)。苦手な教科をあきらめてしまいそうな生徒に声かけをして、学ぶ姿勢を教えている。基礎力診断テストのGTZ・D2以上を多くの生徒が目指している。また、授業を中心に各種検定合格を目指している。 ○学校行事や部活動等に取り組んでいる中で、うまくいかないことも含め、生徒自身が自分の居場所をみつけられるよう模索している。いじめの訴えや生徒からの相談に耳を傾け、人間関係がうまく築けるようサポートした。 ○ライセンスアカデミーによる進路ガイダンスや、ノルティープランナーズによる手帳の活用に関する講話などを行い、進路意識を高めることができた。	1	A	A						
		欠席、遅刻をせずに登校し、授業等に参加できるよう、体調や生活リズムを整える。自ら挨拶をするなどの礼儀を身に付け、モラルやマナーのある行動をとる。	A			A	A						
	2	基礎学力の定着と学力向上	A		○学校行事や部活動等に取り組んでいる中で、うまくいかないことも含め、生徒自身が自分の居場所をみつけられるよう模索している。いじめの訴えや生徒からの相談に耳を傾け、人間関係がうまく築けるようサポートした。 ○ライセンスアカデミーによる進路ガイダンスや、ノルティープランナーズによる手帳の活用に関する講話などを行い、進路意識を高めることができた。	2	A	A					
		授業や課題に主体的に取り組み、自ら考えながら学ぶ習慣を身に付ける。KGタイム(基礎学力向上の時間)に国数英の学び直しを行い、基礎力診断テストGTZ・D2以上を目指す。朝学習に取り組み、各種検定合格を目指して学習する。	A				A	A					
	3	学校生活の充実	A			○学校行事や部活動等に取り組んでいる中で、うまくいかないことも含め、生徒自身が自分の居場所をみつけられるよう模索している。いじめの訴えや生徒からの相談に耳を傾け、人間関係がうまく築けるようサポートした。 ○ライセンスアカデミーによる進路ガイダンスや、ノルティープランナーズによる手帳の活用に関する講話などを行い、進路意識を高めることができた。	3	A	A				
		HR活動や学校行事、部活動等の活動に積極的に参加し、様々な人間関係を築く。お互い対等に尊重し合い、誰もが安心して充実した学校生活を送れるようにする。	A					A	A				
	4	進路意識の確立	A				○学校行事や部活動等に取り組んでいる中で、うまくいかないことも含め、生徒自身が自分の居場所をみつけられるよう模索している。いじめの訴えや生徒からの相談に耳を傾け、人間関係がうまく築けるようサポートした。 ○ライセンスアカデミーによる進路ガイダンスや、ノルティープランナーズによる手帳の活用に関する講話などを行い、進路意識を高めることができた。	4	A	A			
		教員や保護者との面談や進路行事等を通して、将来の進路についての関心を高める。奉仕作業に参加したり、新聞を読んだりする機会をもうけ、地域社会に目を向ける。	A						A	A			
	二年生	1	誠実で規律ある生活習慣の確立					A	○ほとんどの生徒が遅刻や欠席をせずに登校し、規律ある生活を送っている。 ○服装・頭髪については、ほぼ問題なし。指導対象となった生徒も素直に従っている。 ○挨拶や礼儀などは良好であり、生活全体の雰囲気は昨年よりも落ち着いた。	1	A	A	
			高校生として自覚を持ち行動する。欠席、遅刻せずに登校し、定時着席して授業に参加できるよう、自ら体調や生活リズムに気を付け行動する。また、一商生としてふさわしい頭髪・服装で生活し、自ら挨拶をするなど、礼儀を身に付ける。モラルやマナーのある行動をする。					A			A	A	
		2	計画的学習による基礎学力の向上					B		○朝学習への取組意識は高いとは言えない。特に各種検定対策は個人差が激しいため、指導内容や指導方法の再検討が必要である。 ○国数英のKGタイムでは、各教科から丁寧な指導により、全体的にGTZが上昇した。 ○課題への取り組み・提出の状況は、昨年より改善された。	2	A	A
			年間を通じて朝学習に取り組み、各種検定合格を目指して意欲的に学習する。また読書を通じた情報収集の習慣を身に付ける。国数英の学び直しであるKGタイムや授業の課題に意欲的に取り組み、期日を守って提出する。					B				A	A
3		責任ある学校生活の充実	A	○学校行事等への取り組みは昨年に引き続き良好である。頑張っている仲間を自然に応援できる集団でもあるため、今後は学校全体をリードしていきたい。 ○新体制となった部活動も活動状況等は概ね良好である。掛け持ちする数人の生徒も計画的に活動しており、複数の部での活躍も目立った。				3			A	A	
		積極的に部活動へ参加し技術の向上に努める。HR活動や学校行事、委員会や係の活動に責任を持って取り組む。その際、お互いを尊重し、思いやりのある言動をする。校外の奉仕活動などにも参加し、様々な人間関係を通してコミュニケーション能力を養う。	A								A	A	
4		進路意識の拡充	B		○インターンシップを通して、多くの生徒がある程度の勤労観・職業観を身につけることができた。学んだことを意識しながら今後の学校生活を送らせたい。 ○基礎力診断テスト(学習力チェック)の結果から、徐々に進路意識が高まっている。今後は面談等を通して、より具体的な進路目標の早期設定を目指したい。			4			A	A	
		すべての学校生活を通して自分の将来について適切に考える勤労観・職業観を身に付ける。進路行事や教員との面談を通じて進路活動の方法を学び、活動意欲を高めて、常に情報収集する習慣を身に付ける。	B								A	A	

◇ 自己評価(達成状況)は、次の基準による。

A:達成している B:おおよそ達成している C:あまり達成していない D:達成していない

☆ 学校関係者評価は、次の基準による。

A:適切である B:おおよそ適切である C:あまり適切でない D:適切でない

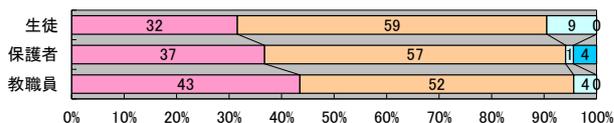
	努力目標	◇ 自己 評価	評価すべき点/改善の方策等	☆学校関係者評価		
	具体的な取り組み			自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ	
三年生	奉仕の心構えと規律ある生活習慣の継続	B	○全体として遅刻・欠席は少なかったが、進路決定以降、朝学習へ遅れてくる者や体調不良により欠席する者が見られ始めた。最後まで自覚を促す声掛けをしていく。日々の清掃活動やバイパス除草などしっかりできた。頭髪服装検査に関して、進路決定後髪が長い生徒が出てきた。清潔感ある頭髪を最後まで意識させたい。	1	A	A
	欠席・遅刻者ゼロを目指す。最上級生として模範となり、積極的に規律を守ることを意識して生活する。また、一商生にふさわしい清潔感ある頭髪・服装で生活し、積極的な行動・挨拶などの礼儀を実践する。ボランティア活動へ積極的に参加する。	B			A A A B A	A A A A A
	継続した基礎学力の向上	A	○朝学習は(月・水・金)を検定対策とし、(火・木)に一般常識・SPI問題集へ取り組ませ、毎週週月曜日に提出させた。週末課題や進路対策の自習用としても効果があったものと思われる。朝学個人計画を立てさせ、主体的にしっかり取り組むよう指導してきた。考査計画シートを記入させ、計画的に学習するよう指導してきた。これまで欠点者ゼロを達成している。	2	A	A
	検定対策や授業、家庭学習に主体的に取り組み、SPI・一般常識なども含めて基礎学力の向上に粘り強く取り組む。また、デュアルシステムの学習を通して、社会で求められる実践的な勤労観・職業観やコミュニケーション能力を磨き、社会人となる心構えを作る。	A			A A A A A	A A A A A
	模範となる学校生活の充実	A	○全体として部活動の中心となり最後まで一生懸命取り組む姿が見られた。最上級生として学校行事の中心となり積極的に取り組むことができた。報告・連絡・相談をすることを常に話してきた。友人関係で若干のトラブルがあったが、担任による個人面談により問題を改善することができた。学年教員間で生徒の変化を早期に把握し、指導の方向性を共有してきた。	3	A	A
	最上級生であることを自覚した行動をとり、後輩の良き見本となるよう、HR活動や委員会活動、学校行事、部活動等に積極的に取り組み充実した学校生活を送る。お互いを尊重し、思いやりのある言動をこころがける。	A			A A A A A	A A A A A
	進路達成	A	○計画的に朝学習などを利用し基礎学力向上に励んだ。やるべきことは「志望理由作成と面接対策」であると早期から自覚を促した。朝学習で面接練習を実施し、多くの回数を重ねることで自信を持って受験することができ全員の内定につながった。社会人として必要なことを考えさせ新しい環境へ向けた準備を指導してきた。	4	A	A
	進路達成へ向けて目標をみすえ主体的・計画的に行動する。進路に関して幅広い視野を持ち、学校・企業に関する情報を積極的に収集する。また、報告・連絡・相談を怠らず進路実現のため最後まで諦めず努力する。	A			A A A A A	A A A A A
	学校関係者評価委員の意見・要望等	<p>◆学校評価アンケートは、きめ細かい対応を行うために多くの項目を設定していると思うが、項目が多すぎるため評価しづらい部分もある。項目数と内容を再検討しても良いのではないか。</p> <p>◆学校評価アンケートの生徒、保護者、教職員で肯定的評価に差が生じている。部活動においても生徒と教職員に差が生じている。コロナ感染症の影響で学校行事に制限がかかったことが原因の一つでもあると思うが、しっかり分析し次年度の活動に生かして欲しい。</p> <p>◆生徒数の減少に伴い保護者も減少することから、各団体役員(PTAを含め)の人数を再検討してはどうか。</p> <p>◆生徒の希望に合わせた部活動の創設は評価できる。指導者を含め活発な部活動を望む。</p> <p>◆デュアルシステム学習報告会を参観して、生徒の発表内容が年々充実してきている。今後も生徒の将来に向けて生徒への指導を頑張ってやってもらいたい。</p> <p>◆デュアルシステム学習報告会は、発表内容や発表方法が今どきで大変素晴らしかった。地域商店に取り入れられる内容もある。地元商工会でこの取組をPRすれば商業高校の見方が変わるだろう。今後もデュアルシステムの取組を多くの人に伝えてもらいたい。</p> <p>◆教育目標達成のため、それぞれの目標に応じて具体的な取り組みがなされている。課題が残る部分について教職員の方々の細かな対応が感じられる。教職員の皆さまの努力の結果である。</p> <p>◆学校を訪問させていただくと生徒の気持ち良い挨拶が出迎えてくれる。挨拶一つであるが教育目標の実現に近づいていると感じ取ることができる。</p> <p>◆学校の存続についての情報が聞こえてくる。高校入試の生徒募集に影響が及ばないことを願っている。</p>				

令和4年度 学校評価アンケートのまとめ

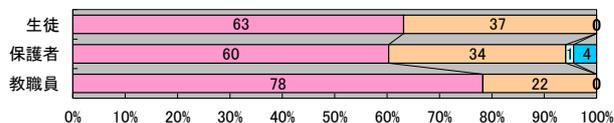
※凡例 よく当てはまる だいたい当てはまる あまり当てはまらない 当てはまらない

I 宮城県公立高等学校共通項目

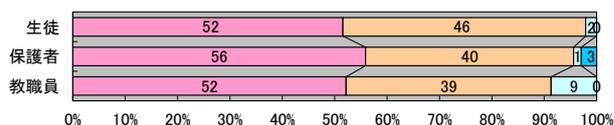
1 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている(学習指導)



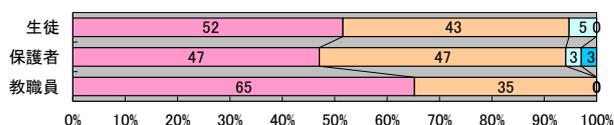
2 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている(生徒指導)



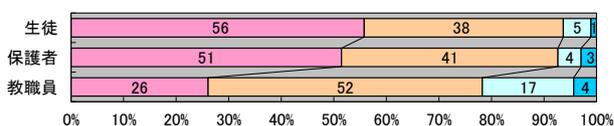
3 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている(進路指導)



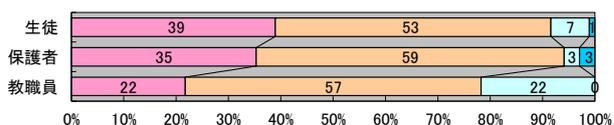
4 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています(教育相談)



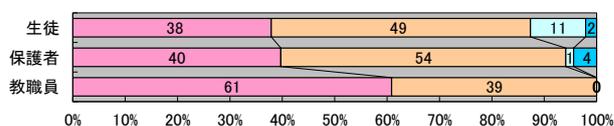
5 部活動は積極的に行われている(部活動)



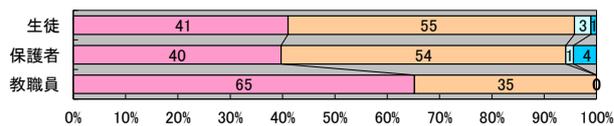
6 生徒会活動は積極的に行われている(生徒会活動)



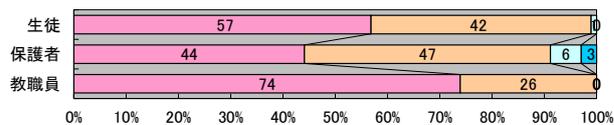
7 有意義な学校行事がある(学校行事)



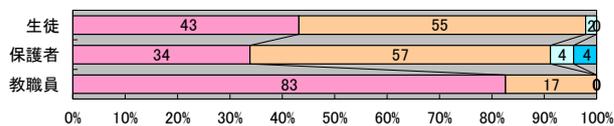
8 地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる(特色ある学校づくり)



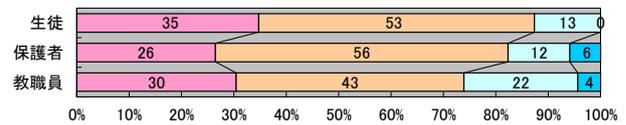
9 災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている(防災教育)



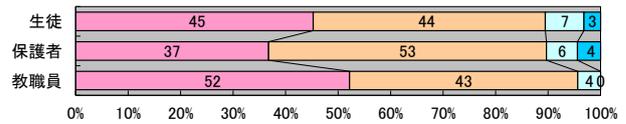
10 ホームページや学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている(開かれた学校づくり)



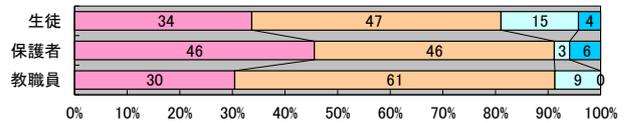
- 11 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている(施設設備)



- 12 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる(いじめ問題・生徒)
学校として、いじめの問題に対して連携する体制がとれている(いじめ問題・保護者・職員)



- 13 生徒の学校生活は充実している(総合満足度)



共通項目の分析
(生徒)

肯定的評価が、90%以上となったものが9項目、80~89%となったものが4項目でした。「生徒の学校生活は充実している(総合満足度)」が81.1%と13項目中で最も低くなりました。割合とすればそれほど低い評価ではありませんが、新型コロナウイルス感染症による学校行事の内容変更等が影響していると考えられます。最も良い評価を得たのは「挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている」で、100%でした。昨年度も97.1%と高評価であり、生活指導が生徒一人一人に浸透している結果と思われる。

(保護者)

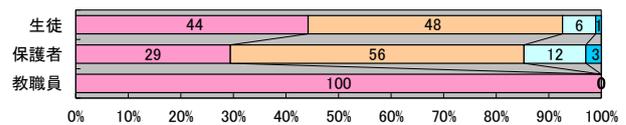
肯定的評価が、90%以上となったものが11項目、80~89%となったものが2項目でした。「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている(進路指導)」が95.6%と高評価でした。全職員での面接練習など個々の生徒に手厚く指導を行った結果であると思われる。

(教職員)

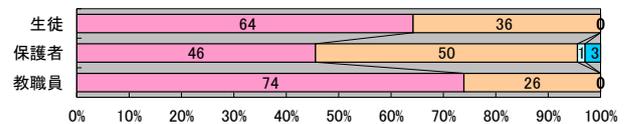
肯定的評価が、90%以上となったものが10項目、70~79%となったものが3項目でした。「部活動は積極的に行われている(部活動)」が、78.3%と他の項目より評価が低くなりました。キャリア・アクティビティで兼部制を導入しましたが、学校全体での部活動の活性化にはまだつながっておらず、兼部制の課題も見えてきました。「生徒会活動は積極的に行われている(生徒会活動)」が、78.3%と昨年度の95.2%より大分下がりました。昨年度との違いを分析し、活発な生徒会活動となるよう指導・助言をお願いします。

II 学校独自の質問項目

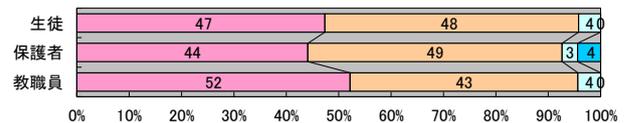
- 14 本校の校訓『誠実・自律・奉仕』を知っている



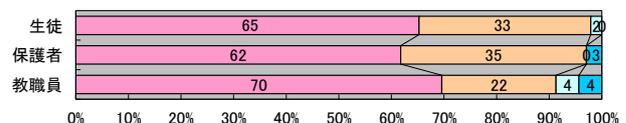
- 15 本校の授業日数や時間は充分である



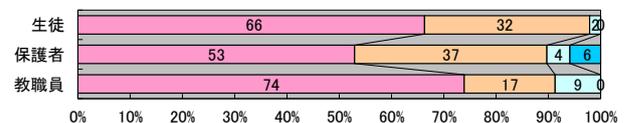
- 16 本校では、基礎学力の向上に向けた対策を充分に実施している



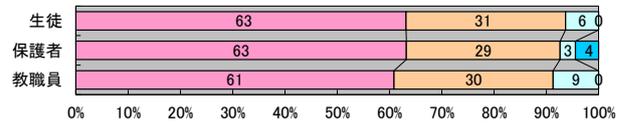
- 17 本校のICT機器など(パソコンなど)の学習環境は整っている



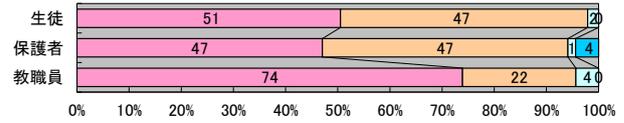
- 18 本校の生徒は、しっかりあいさつをしている



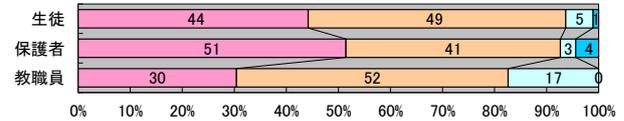
19 本校では、生徒の生活(頭髪や服装を含む)指導を適切に行っている



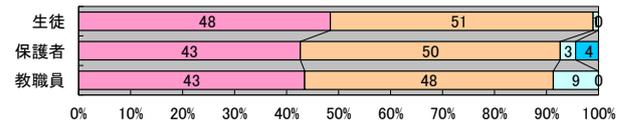
20 本校は、清掃など美化につとめている



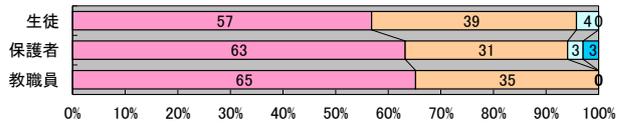
21 本校の生徒は、自主的・自発的に学校行事に参加している



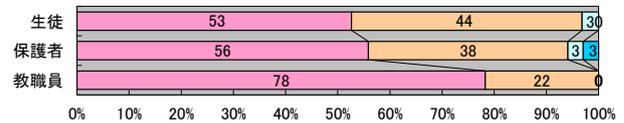
22 本校では、生徒が希望する進路を達成をしている



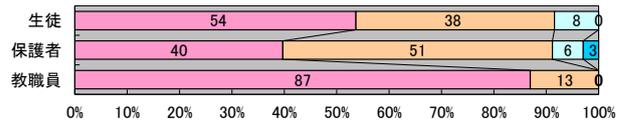
23 本校の職員は、礼儀正しく親切に対応してくれている



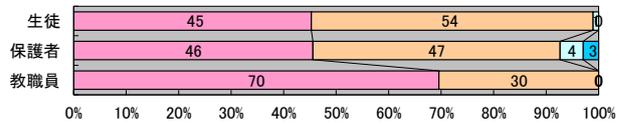
24 本校の職員も生徒も、協力して教育活動にあたっている



25 本校が実施している企業実習・起業家研究・販売実習(栗原版デュアルシステム)の取り組みを知っている



26 本校の教育活動は、地域貢献につながっている



学校独自項目の分析

(生徒・保護者)

生徒の肯定的評価が、13項目すべて90%以上でした。また、保護者の肯定的評価が、90%以上となったものが11項目、80~89%となったものが2項目でした。肯定的評価が生徒・保護者とも85%を超えて高評価であり、本校の指導へのご理解をいただいている結果だと感じています。

質問項目14「本校の校訓『誠実・自律・奉仕』を知っている」について、肯定的評価の生徒が92.6%であり、ほとんどの生徒が知っていることに安堵しました。全校生が校訓を知るとともに、その意味を理解してもらえるように引き続き教育活動を実践していきます。

質問項目16「基礎学力向上への取組」に対して生徒の評価が高く、年々上昇しています。KG(基礎学力向上)タイムの取組を中心に意識が高まっているものと考えます。保護者についてもHP等で取組をPRし、改善を図ります。質問項目17「本校におけるICT機器などの学習環境」は高評価でした。環境だけではなく、授業等で教職員や生徒がICTを多く活用していることが要因であると考えます。

質問項目18「あいさつ」の評価では、保護者の肯定的評価の割合が年々増加しており、生徒のあいさつに対する取り組みが評価されているものと感じています。質問項目21「本校の生徒は自主的・自発的に学校行事に参加している」は今年度からの質問ですが、生徒・保護者とも90%を超える高評価となり、行事への取り組みについて自主的・自発的な参加ができていると感じているようです。

質問項目23「職員の対応」で生徒から前年よりも10%の上昇が見られました。

(教員)

肯定的評価が、90%以上となったものが12項目、80~89%となったものが1項目でした。

質問項目21「学校行事への自主的・自発的な参加」の項目では生徒・保護者の評価ポイントから10%低い評価となっています。教員側が求める生徒の姿と生徒自身の評価に差が出ているので、この差を解消する手段を検討する必要があると考えます。質問項目22「生徒が希望する進路を達成」の項目では、教職員の肯定的評価が前年よりも15%も上昇しました。